

授業科目 成人言語障害学演習Ⅰ

【担当教員名】 渋谷直樹	対象学年	2	対象学科	言語
	開講時期	後期	必修・選択	必修
	単位数	1	時間数	15

【一般目標：G I O】

成人脳損傷者の言語・コミュニケーション障害の種類と重症度を的確に評価し、障害者とその家族そしてリハビリテーションチームの他の専門家に情報を提供するために、検査法、面接法、指導法などを習得し、また評価結果を簡潔にまとめるための基礎知識を身につける。

【行動目標：S B O】

1. 言語評価に必要な医学的・社会的情報を収集する方法を列挙できる。
2. 失語の主な検査法を列挙し、その目的や特徴について説明できる。
3. 代表的検査法の一部を模擬患者に実施できる。
4. 各種検査結果を集計し、総合的な報告書を作成するための基礎を身につける。
5. 障害者や家族に対し評価結果を説明する方法の要点を説明できる。

回数	授業計画又は学習の主題	SBO	
		番号	学習方法・学習課題又は備考・担当教員
1	オリエンテーション。代表的な各種検査の概要を学ぶ。	第1週：1組2組合同	1,2 講義、プリント
2,3	代表的検査の実施手順に従い、検査法を学ぶ。 (標準失語症検査など)	第2週：1組 第3週：2組	3 講義、模擬検査の観察、宿題演習
4,5	代表的検査の実技演習 (標準失語症検査など)	第4週：1組 第5週：2組	3,4 学生の実技演習の評価
6,7	評価報告書の作成、家族等の指導方法	第6週：1組2組合同	4,5 講義、実技演習、宿題演習

【使用図書】	<書名>	<著者名>	<発行所>	<発行年・価格・その他>
教科書	脳卒中後のコミュニケーション障害	竹内愛子、河内十郎編著	共同医学出版社	1995年、5600円 ISBN:4-7639-3009-5
参考書	新編 言語治療マニュアル	伊藤元信、笹沼澄子編	医歯薬出版	2002年、6400円 ISBN:4-263-21128-6
その他の資料	プリント			

【評価方法】 出席状況、実技試験、期末試験により評価する	【履修上の留意点】 履修者を1組2組に等分する。第1週と第6週は両組の合同で開講し、第2～5週は各組毎に開講する。各週ともに2コマ連続に実施する。
---------------------------------	--

言語聴覚学科 専門